

Ⅷ 保存・整備

1 富岡住民と遺跡保存

松倉紘洋(中高瀬観音山遺跡の活用を考える会)

中高瀬観音山遺跡は、上信越自動車道の建設に際して、群馬県富岡市に発見された遺跡です。

弥生時代後期の東日本では極めて珍しい高地性集落で、「東の吉野ヶ里」と評されました。その重要性が地域住民に知らされて、保存の運動が起きたのです。それは小さな組織でしたが、大きな成果を挙げることができました。

さて、この遺跡が群馬県埋蔵文化財調査事業団に依り発見され(89年6月)、住民の知るところとなったのは、同事業団が発行した『発掘ニュース』(第1号89年7月10日)と、毎月1回行われた見学会が発端でした。

当時は、自動車道の工程全体も遅れ、文化財調査もいよいよ最終段階になっていました。道路公団も早く調査を終えて本格的な建設工事に入りたい矢先だったので、大変な時期と重なり事業団の調査員もご苦労が多かったと思います。

この見学会と『発掘ニュース』(月2回発行)が回を重ねるごとに、地元では少しずつではありますが、見学者が増えだしたようです。が、それでも反応はいま一つの感があり、その頃、保存ということは思いもありませんでした。9月頃でしたか、事業団の調査事務所から、遺跡の近くにある光厳寺の私(住職)に、この遺跡の素晴らしさをできるだけ多くの人に見てもらいたいと、さらに案内がありました。

私は友人である小堀氏(市教育委員 石材業)や下山氏(新聞店)といっしょに改めて遺跡を見学し、そこで話し合いました。

この「東の吉野ヶ里」と評されるものが、この地に発見され、それが間もなく道路工事によって取り壊される、それもリミットは翌年3月ということ。この厳しい現実逆天に逆らって、「何とかして見よう」という熱い思いがこみ上げて来たのです。

「まずこの遺跡の重要性をPRすべきだ!その為には、現地を見てもらうこと、その重要性を認識してもらうこと、それは講演会を含めたイベントが良いだろう」ということとなりました。そこで組織を造る必要があるが、時間はありませんでした。しかたなく「組織は少数精鋭で小回りのきくもので行こう」ということになり、結果、小堀・下山それに元校長の今井と坂本、横田(教員)・飯森(ユネスコ役員)・山田(印刷業)、松倉の計8名で『中高瀬観音山遺跡を学ぶ会』を結成したのです。

12月9日10日にイベント「昔にもどる日」の事業を、企画・実施することとなりました。開催まで約1カ月間、資金は全くありませんでした。それが、市民や友人・知人に募金をお願いして、何と1週間で「50万円」が集まってしまいました!会場の県信用組合は、休日だが特別の好意で無料で貸して下さりました。更に、あの佐原眞先生や白石太郎先生が手弁当でかけつけて下さったことに、今更ながら、驚きと感謝と尊敬の念で胸が熱くなります。

当然マスコミも注目して下さり、会場は満員の盛況でした。これらの聴衆は地元が中心でありましたが、「今朝の新聞を見て飛んで来た」と、埼玉や東京・千葉の方もおられたのにこれまた驚きました。二日目の現地説明会は、「のろし」をあげる古来の伝達方式とオートバイによる競争を行ったりして、大勢の参加者を得たことも忘れられません。

